令和８年度　第１回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時　令和８年９月１日(火) 10 時 00 分～11 時 30 分

開催場所　北海道立文学館　地階講堂

Ⅰ　次第

１　主催者挨拶

２　議題

(1)　令和８年度事業の実施状況について

(2)　令和８年度道立文学館アンケート集計結果（第１四半期）について

Ⅱ　出席委員

（敬称略；あいうえお順）

氏　　名	所　　属　　等
東谷　一彦	【学識経験者】 札幌国際大学短期大学部　非常勤講師
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部　事務局長)
古内　良輔	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会　事務局長)
渡辺　俊之	【社会教育関係者】 公益財団法人北海道生涯学習協会　専務理事

Ⅲ　委員からの意見等

議題（1）について

委　員）

よりたくさんの企画を今お聞きして、いろいろ変更のある中で、さまざまな企画を連ねていって、いつもながら素晴らしいなと思っています。

本日、見せていただいた絵本展も複製であったり原画であったりを間近に見ることができて、大人も楽しめて、子どもはもっと楽しいのではないかと思いました。生き生きとした絵本作家の原画を見ることができ、とても印象深い絵本展だと思いました。

いつも特別展では、ロビーで関連の映像を流していて、今回もかわいらしいアニメーションが流れていましたが、特別展の会場と離れていることからアニメーションとのつながりがないような気がしたので、矢印でもいいので、案内表示があった方がよいと思いました。表示があると、モニターの前に椅子が6脚とはいえあるので、ちょっと休みな

がら見ることができるのではないかと思いました。つながるようにされてはどうかという感想を持ちました。

　会場入口付近にある写真撮影の場所も、かわいらしくていいですね。

　常設展の展示の方ですが、俳句のところにすごく古いものが展示されているという感想があったので、今、現在までつながっていくような、歴史がわかるような展示方法に変えるということをお聞きしたので、ありがたいなと感じています。

事務局）

　関連した映像を流していますという案内表示をしたいと思います。

委　員）

　特別展については、単なる絵本作家ではなく、すごい作家だなということがよくわかり、いい展示だったと感じております。

　それと常設展のリニューアルの話を聞かせていただいて、本当に楽しみだなという気がしています。やっぱり椅子を置いていただくのは、ありがたいです。それと「ダミー本」、いいアイデアだなと思いました。

　文学道場の説明がありましたが、例えば、高文連に文芸専門部があります。たぶん、中文連にもあると思いますが、そういったところに、文学道場開催の情報を提供するなど、直接アプローチしていただいていますか。

事務局）

　中学や高校には、直接ポスター等を送らせていただいています。

　高文連や中文連へのアプローチの仕方をご教示していただければ、来年からやっていきたいと思います。

　高文連などにパイプがないので、どこの誰に電話していいのかわかりません。

委　員）

　専門部に、直接こんなものがありますと声を掛けてもらえれば、そういうのに興味を持っている子どもたちがいるはずです。たぶん中文連にも文芸部があったと思いました。中文連や高文連の専門部か本部にでも直接声を掛けてもらった方がよいのではと思いました。

　高文連の場合は、事務局校は２年ぐらいで変わるので、まずその事務局校に連絡し

て、それぞれの専門部に直接連絡していいということであれば、直接連絡していただくことになるのではないか。

事務局長は、だいたい札幌の学校だと思いますが。

事務局）

文学道場については、今は、遠隔地に住んでいる子どもでも、リモートで参加できます。

委　員）

ぜひ中学生や高校生には、いっぱい参加してほしいと思います。

事務局）

文芸部の顧問の先生には、直接お声をがけさせていただき、一昨年は、高文連の文芸部の夏の大会に行って、このイベントについてご紹介をさせていただきました。

委　員）

高校だったら図書専門部というのもあります。

あと、最後に難しいことだと思いますが、今年、札幌在住の作家である朝倉かすみさんが直木賞を取られたので、何か関係が持てるといいなと期待したりしました。何か関わりがあればいいなと思いました。

事務局）

２年前に朝倉かすみさんにご講演をお願いしたことがありますが、今回受賞されたので、謝金が上がっていると思いますが、また、来ていただければいいなと思っています。

委　員）

閲覧室には、何かありますか。受賞おめでとうございますみたいなコーナーが。

事務局）苫名

お貸しすることはできませんが、館内で読んでもらうことができます。

委　員）

今回の特別展は、絵本作家というか、絵本ということですが、去年もちょうどマールのイベントがありました。

やはり絵本というのは、子どもさんが親しむ文学の入口にあたる部分だと思いましたし、絵本自体は、堀内誠一さんがすごい昔に描かれたものですけれど、とにかく色あせず、保育園や幼稚園で繰り返し読まれていて、記憶に残るものという意味では、これから先に文学に親しんでいくにあたって、大事な入口の部分になると、今日のお話を聞いてすごく思いました。

今回の特別展は、今まで見せていただいた特別展と会場内でのまわり順が逆になっていたと思いましたが、その何か特別な理由があって時計回りになっているのか、特に違和感があったわけではないのですが、こっちから見ると思ったときに、逆にいったので、これには何か特別な理由があるのかなと感じたところです。

事務局）

展覧会によってどちら回りが良いのかを判断して組んでいますが、主に縦書きのパネルがメインになるときは反時計回りにして、横書きのパネルがメインになるときは、時計回りに組んでいるときが多いです。入ってくると順路の方に、右に進もうとすると、左手の仮設壁よりも右手の躯体壁から見る傾向が強く、そこが縦書きだと、縦書きは右から読むようにできているので、すごく都合が良い。

逆に、仮設壁に行くと逆方向になってしまうので、あまり横長く縦書きにするのは避けるということを考えていかなければならない。逆に左手順路だとその左の躯体壁にあわせた横書き、左からアプローチして読みやすいタイプのパネルが馴染むということで、縦書きタイプで展示を行ないたいときは、反時計回り。横書きタイプにしたいときは、時計回りというだいたい流れで、設置しています。

委　員）

よくわかる説明でした。

割りと昔のものは、絵本を開いたときは国語の教科書のような進み方、新しいものは、逆に左側を開いていくような。認識があっているかはわかりませんが、さっきぱっと見たときに、古い絵本は右から左に進んでいるようなもので、割りと新しいものは、左から左に進んでいるようだったので、そんなのが関係しているのかと思いましたが、あんまり関係なかったようです。でもそんなのも、すごくおもしろいと思いました。

また、所々で、自由に絵本を読めるようになっているのも、子どもさんにとってすごく良い試みだと思いました。

あと、特別展に関してですが、例年行なわれている教育普及事業については観覧無料で行なわれていますが、ほかの特別展の基本的な観覧料の設定は、その特別展によって多少差があるというか、設定が変わるものなのか、お金を取るときは一緒になっているのか、確か微妙に違っていたと記憶していますが、そうであれば観覧料の決め方というか、どういう形で決めているのか、教えて貰えるものであれば、教えてください。

事務局）

特別展は、だいたい２種類ありまして、一般料金が７００円と５００円のものがあります。５００円にしているものは、比較的費用が掛からないもの、７００円にしているものは、比較的遠方から資料を持ってきて、けっこう送料が掛かっているものとか、どうしても費用の分で負担をお願いするという観点から、その２種類となります。

掛かる費用は、展示によってだいぶん違います。資料をお借りする値段も相当違うし、運んでくるのにもお金が掛かるし、費用が掛かるものは、一定程度の負担をお願いしています。

５００円のものについては、６５歳以上の人はお金をいただかなかったりして、所蔵品展やあるいは近くから借りた資料とかは、幅広く見てもらうという観点から設定していました。

委　員）

ちなみに観覧料は、７００円と５００円と予算の規模によって負担していただくという観点だと思いますが、７００円とか５００円は条例で決められているものでなく、今までの慣例上で７００円、５００円というもので、例えば、千円にできるものなのか。そのへんはいかがでしょうか。

事務局）

道の方からは、上限だけが設定されていて、そのあとは当館で決められます。

実は、他の文学館の中にはあまり金額が高いところがありません。美術館はもっと高いところがあり、当然、作品を借りるお金とか運ぶお金とか高いでしょうから。

文学館では高いところでも特別展を８００円ぐらいで設定されているので、それを勘案して、バランスを取りながら考えさせていただいています。

議題（2）について

特に意見なし

閉会に当たって

事務局）

　お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございました。